

表紙, 目次, 通信, 雑報

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38009

大正六年一月一日發行

十全會雜誌

全澤醫學專門學校十全會

卷二十二第
號一第
(號二十三第)

十三年會報誌(第十二卷第(號)目次)

○原著及實驗

●內臟轉錯症ノ三例。

金澤醫學專門學校第二内科教室

金澤醫學士 近藤清吾

●「メチレン」普及「チアノクプロール」ヲ

應用セル結核動物ノ治療小實驗。

ドクトル 竹中繁次郎

○通信

●石原巖氏通信。●桐田健三郎氏通信。

○雜報

●金子教授在職三十年祝賀會。

○叙任及辭令

●宮内省。●石川縣。●陸海軍省。

○人事

●栗山光太郎氏。●轉居。

○會告

●校外特別會員會費納付調書。

○廣告



金子博士畧歴

石川縣士族

金子治郎

- 安政五年六月 金澤市十三間町ニ生ル
明治七年四月 金澤醫學所へ入學
全十二年二月 卒業
全 年十月 金澤醫學所助教心得拜命
全 十三年十二月 金澤醫學校教諭囑任
全 十五年一月 東京大學醫學部解剖學教場補助申付
全 十八年十二月 任大阪醫學校教諭
全 二十九年八月 任第四高等學校教授
全 三十五年八月 解剖學研究ノ爲メ滿二箇年獨國へ留學ヲ命ス
全 三十七年十二月 歸朝
全 三十八年四月 醫學博士ノ學位授與
 (論文錄狀緣及隄弓ノ人工形成)
全 四十一年十月 陞叙高等官三等
大正四年一月 叙正五位
全 五年十一月 叙勳四等授瑞寶章

二、Cyanocaprolヲ體重毎疋〇・五密瓦ノ比ニテ毎二週乃至三週ニ靜脈内注射スルモ之レ亦六箇月内ニテ結核家兔及「モルモット」ヲ治療若クハ輕快セシムル能ハズ
茲ニ本論文ニ對シ多大ノ指導ヲ與ヘラレクル東京醫科大學教授永井潛先生ノ厚意ヲ陳謝ス

通信

●石原巖氏通信

敬愛する我が母校學生諸君の御健勝を祝します。

諸君の御參考にも存じ醫學者と社會事業とでも謂いませうか私が近く感じた事を御通信申し上げます。Soziale Hygiene, Rassen-Hygiene 等は人口の増殖、文明の進歩に伴ふて其の必要が時々刻々に増加しつゝあります。人類の完全なる文化學進歩には必ず又生物學的進歩が伴はなければならぬのであります。之れが一致しない所に國家の衰亡、人類の絶滅が存するのであります。されば國家百年の隆昌を期し、永き人類の繁榮を祈る者は必ず此の問題に留意す可きであります。我が國の社會醫學的狀態を見ますれば歐米の如く物質文明の進歩が著からざるだけ餘弊も少ないが、又社會福祉上に於ける施設には甚だしい欠陥を示して居ます。鷗外博士は其の小

説に著者が初めて伯林に行つて、時の公使に衛生學を研究に來た事を話すと公使が「指で鼻糞をほじつたり、足の趾の股に繩を挿んで歩く日本人に衛生とはとてもお話にならん。」と言はれたと書いて居られます。帝都東京の道路を見ただけでも此の感を深くします。雨が降れば泥濘を没し、風が吹けば黄塵萬丈。兒玉先生の所謂「江戸の花曇とは Staub 曇」です。萬事が之れです。結核が日本に多いと言つて驢いでも國民の榮養、上下水道、都市の道路、家庭の構造、救貧事業、疾病の社會的保護等が完備しなければ到底撲滅の目的を達する事は出来ません、工場法の制定は極めて結構でしたが救貧事業の殆ど無い我が國では反つて病軀ながらも多少の勞働をして居た人々の職を失はしめて其の家族から「パン」を奪ふ様な悲惨を惹き起して居ます。東京驛の水洗便所は驕として至極結構ですが其の儘裏の河に放流するので問題となつて居ます。之等は皆我が國の過渡時代に於ける面白い「アイロニー」ではありませんが。私等の今調査して居るのは年少者保護 Jugendinsorge、就中乳兒保護 Säuglingsinsorge、といふ問題であります。書物で見ますと歐米では實に驚く可き發達をして居る様です。然るに我が國には殆ど之等の設置は皆無と言ふ可きで之れに關する一冊の書籍さへ無い有様です。此處にも種々の社會問題は有りますが、一例を挙げれば Säuglingsernährung の問題であります。歐米では乳兒は六七十「プロセント」まで所謂 Flaschenkind まで温かい母の乳房を知らない兒なのです、其の爲めに唯々乳兒死亡率を著しく高めるのみならず、一方には必ず生存兒も體質薄弱で危険を伴ふに極つて居ます、之は人類退化の一大原因で有る事を私は信じます。幸に我が國では未だ授乳の美風は廢りませんが、

榮養品が安價便利に得られ、婦人の自意識が熾烈となつて來るに共に必ず社會問題となる事と思ひます。其の他最も大切な國民の榮養問題、賣笑殊に花柳病問題、酒精問題、乃至米國に實行せる如き犯罪人、遺傳性病者の子孫中絶問題、又之にして近く母校出身の北ドクトルが主任なられた學校衛生、更に工場衛生、鑛山衛生等、之等に就いて何物をも持つて居らぬ我が國では殆ど何處より手を著けていか全く解らぬ状態にあるのです。又現に起草されつゝある年少者裁判法の如き、ロンブローグ—Angobrenner Verbrechen のが全部真理で無いにしても、近代の犯罪學は醫學と握手し、監獄は病院に變じつゝあると謂はるゝ如く、異常なる兒童の精神的及び肉体的檢鑿、理解は必ず醫學者の手を俟たねばならない事は明ではありませんが、故に年少者刑法の實施は唯法官のみになつて行はれては全く無意味と言つて支障ないと思はれます。

私は唯私の氣のついた二三の例を業けて我が國の社會醫學の状態を申し上げたに過ぎません。

諸君、我が國に一人でも眞に社會衛生學の解つた學者が有るであらうか。こゝを諸君に考へて頂きたいのであります。日本の社會醫學といふ廣大な野は全く處女地として母校の諸君の努力を俟つて居るのであります。一人の醫となる固より貴し、然し五千万人の醫となる亦樂しからずやでありませぬ。

社會醫學者は孜孜吃々たる分析的研究と共に博大なる常識による洞察力が必要であります。彼は又勿論醫學者とし凡ての修養をなし、私は殊に細菌學、精神病學、化學等が最も必要と存じます。少なくとも五年や七年は之

等を専門に研究して其の専門家として一家の見を有せざれば社會醫學者として三つの價値も無いと思はれます。又經濟及び法律も副智識として必須なものであります。元來社會醫學は机上の學問ではありませんが、之が實行の爲めには一方官吏生活を多くは要約とします、故に彼は役人氣質(殊に我が國の)に耐へ得るだけの寛厚を必要とします、尙最後に彼は財豊かにして後顧の憂なき人にあらずれば到底仕事は出來ないで有らうと言ふ事を附加し、諸君の御努力を祈つて筆を擱きます。

十二月十四日

内務省衛生調査會にて

石原巖

●桐田健三郎氏通信

(大正四年卒業、京大内科研究)

(前畧) 其後同志社長方々の御盡力により萬事好都合を得候間愈々來る廿六日神戸發の天津丸にて渡米致す事に相成候一月末にはウィスターに到着致しベリ—氏(先達日本政府より勳三等を受與せられたる方に候)の御家族の一員と相成り十月末まで御厄介になり語學を專攻し其後バルナモア市に至り産婦人科學者クリ—博士の御厄介になり此地にて同氏の補助を受けつつ産婦人科を研學致す事に相成候間出來得る限り長く滞在致す心積りに候(後畧)

十二月十四日

近江國長濱町

桐田健三郎

●金子教授在職三十年祝賀會 (十二月十日)

本校教授金子博士は明治十二年本校の前身たる金澤醫學所を卒業し爾後本校教諭及東大醫科大學解剖學教室にありて專心解剖學の研究に没頭し明治十八年大阪醫學學校教諭に任ぜられて醫育に教鞭を執られし以來大阪に十年を過ごし本校に轉任せられてより二十年を経て滿三十年以上に互りたるにより門弟相謀りて新築解剖學教室の後庭に全博士の半身像を立て其除幕式に兼ねるに祝賀會を昨十二月十日開催せり。

當日は晴天なりしも醫王山嵐が身を切るやうなりしも壽像前に天幕を張りて式場にあてたりしかば左のみ寒からざりき、午前十一時學生來賓に次て金子博士は其令嬢及令息と共に下平委員長の先導によりて式場に着席せられたり。

式は金子博士の爲め滿腔の赤誠を披瀝したる委員長下平博士の開會の辭に初まり續て副委員長松原教授は第四高等學校教授駒井德太郎氏の撰文せられたる左の像記を朗讀して頌徳の辭となせり。

君名治郎金子其姓金澤人幼聰穎長入金澤醫學所才學情膽斬然拔群明治十一年 先帝北巡親臨觀業君講書 御前尤極寵榮明年畢業任金澤醫學學校教諭尋爲東京大學醫學部助手當是時修解剖學者甚少君獨潛心研鑽爲諸老先

生所推重十八年任大阪醫學學校教諭廿九年轉第四高等學校醫學部皆講解剖學後醫學部改金澤醫學專門學校君教授如故三十五年奉命遊獨國留二年其學愈進三十八年授醫學博士以其有鍊狀緣及隄弓人工論文著也蓋前人未發之說而有効於醫學不尠少也累進高等官三等正五位勳四等君爲人恬澹高雅而處已接人一以至誠賴其誘掖訓導立身成家馳名於杏林者甚多今茲丙辰值君在職三十年從學之徒胥謀曰金子先生教授之模範也本邦解剖學之先覺也吾徒豈可不表景仰之意乎竟樹壽像於金澤醫學專門學校余使且詎其事歷嗚呼君之聲譽庶哉與此像永存而不泯也

大正五年冬十月

駒井 德撰

次て金子博士の令嬢壽江子は佐口教授に伴はれて幕を引くや博士の英姿生けるが如く拍手暫しは止まざりき、引き續き解剖學教室助手高橋氏は三つ重れの金杯を博士に呈し全目錄を朗讀するや博士は無言の裡に溢るゝ感謝の念を捧げられたり。

次て學生總代橫井英太郎氏。門生總代京都醫學專門學校教諭醫學博士岡島敬治氏。同僚總代教授山崎幹氏。學校長高安博士。金澤醫師會會長米村吉太郎氏。石川縣醫師會會長飯森益太郎氏の祝辭あり何れも衷心より博士の學殖と人格とを頌して止まず。

最後に博士の感謝の辭あり亦博士の人格を表現せるものなりき。曰く今日かゝる盛大なる祝賀式を擧げられたるに禮の辭として私は驚馬に鞭打ちて將來益々努力し以て諸君の赤誠の萬分の一に酬ひたいと斯う述べたいが私は今さうは申し上げ兼ます先達て田中館理學博士が勤續二十五年祝賀式の當日先づ辭表を捧げて後進の爲め途を拓くと言はれたり之れ誠に掬すべき

學者の進退である田中箱博士にして然り自分のやうな淺學の徒は況んやである——が併し私は勝手ながら今暫らく御厄介になりまます今日の事に就ては只感謝さいふの外一言もなしと言つて幾度か町重に黙禮せられたる博士の眼には感謝の涙の光るを見たり博士の胸中察すべし。

正午副委員長大阪醫科大學教授櫻根博士の閉會の辭によりて式を終へ學生は講堂に於て來賓は新築の紀念箱に於て午餐を喫し來賓席に於ては溝淵第四高等學校長の音頭によりて金子博士の萬歳を祝し博士又來賓の爲め乾盃して歡聲堂を動かしたり。

午後一時より大講堂に於て茶話會を開き餘興を催せり、席上駒井教授は像記を撰文せられたる經歷を話して博士の學徳を頌し學生を誠むる所あり次て學生の劍舞あり其妙技は多大の喝采を博せり續て小立野町有志者の餅搗三番曳、七草、豐年、玉兎、萬歳等あり是れ金子博士が近時小立野山崎町に住宅を新築せられたるを以て同町有志者が特に博士の今日の盛典を祝し斯くは餘興として何十年目に一度行はるゝといふ餅搗を寄附したるものにして全博士の德望亦偉なりと云ふべし眞に積善の餘慶なり。

茶話會の席上に於て委員が紅白の大鏡餅を博士に呈するや博士は感極つて手巾にて眼を拭はれたるも遂には堪へざるものゝ如く眼鏡を取り両手にて手巾を押さへられたるは其心情察するに餘あり斯て餘興の終ると共に下平委員長の音頭により金子博士の萬歳を三唱して一同博士の健康を祝し全家の繁榮を祈つて和氣霽々の裡に閉會したるは午後四時なりき。

當日の來會者は遠きは神戸三宮より弓場氏、大阪醫科大學教授櫻根博士、京都醫專教授岡島博士、京都醫科大學解剖學助手岡本規矩男氏等にして近

きは富山縣等より多數の出席者あり尙ほ金澤市内にては本校關係の醫師諸氏の外に第四高等學校長溝淵進馬氏、教授市村塘、駒井德太郎、赤井直好、金田鬼一等の諸氏なりき。

叙任及辭令

宮内省

- 叙勳三等授瑞寶章 從四位勳四等 山 碕 幹
- 叙勳四等授瑞寶章 正五位勳五等醫學博士 下 平 用 彩
- 叙勳四等授瑞寶章 正五位勳五等醫學博士 金 子 治 郎
- (以上十一月二十九日)

石川縣

- 願ニ依り職務ヲ免ス(十一月三十日) 調劑員 中林 清右衛門
- 死 亡 (十二月三日) 醫 員 栗 山 光 太 郎 (大三)
- 金澤病院醫員ヲ命ス(十二月十三日) 金 子 貞 吉 (大三)
- (十二級俸給與) 小兒科
- 金澤病院醫員ヲ命ス(十二月十三日) 稻 尾 茂 孝 (大三)
- (十二級俸給與) 眼 科

●陸海軍省

叙従四位 陸軍々醫監正五位勳三等 寺西 幸作(甲醫)
特旨ヲ以テ位一級被進

補海軍々醫學校教官 海軍々醫大監 鈴木寛之助(二九)

海軍々醫學校甲種學生教程卒業ニ付學生被免 海軍大軍醫 小出貞次郎(三九)

扶桑乗組被仰付

平戸軍醫長海軍大軍醫 小野 醇 吉(四〇)

免本職並兼職

海軍々醫學校甲種學生被仰付

海軍中軍醫 萩原 忠(四四)

免周防乗組補横須賀海軍病院附

賜一級俸

人 事

●栗山光太郎氏 は大正三年首席を以て本校醫學科を卒業し銀時計を授けられ卒業後直ちに眼科醫局に入り高安博士の指導の下に汲々として研究に耽り本年四月の學會には『有縁性角膜炎の病理解剖』なる研究材料を携

へて上京し東都の眼科學會上に於て其蘊蓄を吐露し意氣天を衝くの概あり歸來甚だ元氣なりしが六月以來肋膜炎に襲はれ國手の治療を受けられたるも天終に此青年の好研究家に壽を與へず病狀益々進み精力愈々衰へ終に去十二月三日金澤病院の病室に於て不婦の客となりたり吾人は此前途最も有望の青年研究家を失ひたるを痛嘆す。

●轉 居

横須賀、軍艦、河内

大西 瀨 治(三二)

愛媛縣新居郡西條町大字八千代巷

長 外喜男(大四)

岡山輜重兵第十七大隊附

青木 伸 一(大元)

東京醫科大學皮膚科教室

川原 武 夫(大二)

姫路市歩兵第三十九聯隊

富家 光 雄(四二)

横須賀郵便局氣付、海軍運送船鹿兒島丸軍醫長

長 井 運 男(三八)

東京府下西大久保四五七、生沼方

山 碕 重 治(四三)

金澤歩兵第七聯隊第十二中隊

早 藤 市 郎(大四)

臺灣基隆大阪商船會社支店氣付、藥取丸乗組船醫

武 曾 三 郎(三四)

金澤市穴水町十二番地

川 越 清 造(大五)



會告

自大正五年十月二十三日校外特別會員會費納付調書
至全 十二月十八日

金額 期限 氏名

一金參圓也 自大正五年度 三ヶ年分 吉田 少 二殿

一金參圓也 全 錦見 元 雄殿

一金參圓也 全 宮地 幾 也殿

一金壹圓也 大正五年度分 布瀬 七一 耶殿

一金壹圓也 全 川原 武 夫殿

一金壹圓也 大正六年度分 瀬尾 順四 耶殿

以上

廣告

謹啓各位益御清榮奉賀候陳は不肖在職三十年なるを以て今回壯嚴類なき紀念祝賀會御開催にて金澤醫學專門學校後庭に銅像御建立大阪醫科大學に肖像扁額御寄贈

其上尙不肖に結構なる三組金杯御惠贈被成下不肖並に家門は絶大の光榮に浴し候段誠以難有仕合御芳情深く感佩仕候私事御存知の通り淺學菲才只各位の御高庇に由り永年月の間職に斑し候得共寸毫の功績も無之然るに斯る御優待に預り候は却て汗顔の至依てはじめ再三御辭退仕候得其素志貫徹するなく遂に今日の結果と相成何其慚愧措能はさる次第に御座候左れと既往は逐ふべからず斯る上は私事性極て魯鈍の上近來益老衰加はり最早何事も爲す能はず候得其尙一日たりとも在職中は只亦誠を捧けて乏を最善に負ひ以て各位の宏大なる御好意萬分一も御應へ仕り度存念に御座候右滿腔の敬意を表し御禮申述度まで如此御座候 拜具

大正五年十二月十三日

金子 治 郎

學生 諸君

同僚及職員諸君

内外學友其他の辱知諸君

各位御中